

大学概要

- 1990年 岡山県高梁市に開学
- 2006年 岡山駅前キャンパスを開設
- 2013年 兵庫県南あわじ市に「南あわじ志知キャンパス」を開設
- 2014年 岡山市北区に「岡山キャンパス」を開設
- 6学部4研究科および通信制大学院3研究科を有する総合大学



建学の理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」

SDGs取組の経緯

- 2008年4月 学長方針説明会で、**エコアクション21 (EA21)** に取り組むことを学長が表明
- 2010年5月 全国の大学では9番目となる**EA21の認証を取得**し、環境マネジメントシステムを構築し、環境に配慮したキャンパス作りを開始（現在はEA21の認証を取得せず、本学独自の環境マネジメントシステムを運用）
- 2013年度 文部科学省「**地（知）の拠点整備事業**」に「だれもが役割のある生きいきした地域の創成」というテーマで採択され、持続可能性に関連した地域志向の教育・研究を推進
- 2015年度 順正学園創立50周年記念事業として**順正デリシャスフードキッズクラブ**を設置し、子ども支援を開始
- 2021年4月 **吉備国際大学SDGs推進委員会**設置し、SDGsに関する取組を組織化
- 2021年9月 「**吉備国際大学SDGs行動宣言**」策定

本学では、SDGsに関連した活動を統括して実施する組織として、2021年度に**SDGs推進委員会**を設置しました。また、SDGsの達成に向けて、取り組みの推進を強化すると共に、大学構成員が一体となってSDGsの達成に向けて取り組むという決意を示すために、2021年9月1日に「**吉備国際大学SDGs行動宣言**」を策定しました。

また、大学の教職員がSDGsに取り組む時に参考としてもらえるよう「**吉備国際大学SDGs取り組みの手引き**」を作成しました。この手引きでは、SDGsの理解から始まり、大学で行われている活動のSDGsへの紐付け、目標の設定と取り組みの行動計画策定、評価と見直し、情報公開について記載し、大学におけるSDGs取り組みの手順を解説しています。

さらに、SDGsの取り組みに関する情報公開の一環として、学内の取り組み事例をピックアップした事例集「**SDGs達成に向けた吉備国際大学の取組**」を2023年3月に刊行しました。事例集には、SDGsに関連して学内で行われている代表的な24の取り組みを掲載しています。

吉備国際大学SDGs行動宣言

2021年9月1日

吉備国際大学は「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念の実現を目指して教育・研究活動を行ってまいりました。本学の建学の理念および教育・研究の方針は持続可能な社会の実現を目標とするSDGsの理念と価値観を共有するものです。
本学は教育・研究・社会貢献活動を通じてSDGsの達成に向けて取り組んでまいります。

(管理運営)

1. 教職員および学生を含めた大学の全構成員がSDGsの達成に向けて取り組みます。
2. すべてのステークホルダーの人権を尊重し、ジェンダー平等の実現を目指します。
3. 大学で行われるすべての活動による環境への負荷を減らし、持続可能な地球環境の実現を目指します。
4. SDGsの取り組み状況を定期的に評価し、適切な情報開示を行います。

(教育)

5. 各科目の学習内容とSDGsとの関わりを明確にし、学生のSDGsに対する意識を高める教育を行います。
6. 「自ら学ぶ力」、「生き抜く力」、「可能性を信じる力」の3つの力を身につけた、SDGsの達成に向けて行動できる人材を育成します。

(研究)

7. 本学に所属する多様な分野の専門家の知を結集し、横断的・統合的な視点を持って研究を展開し、SDGsの達成に貢献します。

(社会貢献)

8. 地域社会、行政、産業界と連携して住み続けられるまちづくりに貢献します。
9. 世界各国の大学等と連携して、国際協力を通してSDGsの達成を目指します。



吉備国際大学ブランドビジョン
実践的な知識を自ら学ぶ力、
多様化する社会で生き抜く力、
自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。

吉備国際大学 SDGs取り組みの 手引き

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



吉備国際大学SDGs推進委員会



吉備国際大学ブランドビジョン
実践的な知識を自ら学ぶ力、
多様化する社会で生き抜く力、
自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。

SDGs達成に向けた 吉備国際大学の取組

吉備国際大学SDGs推進委員会

持続可能でWell-Beingな社会づくりを目指した吉備国際大学の取組事例

EMS 活動の推進

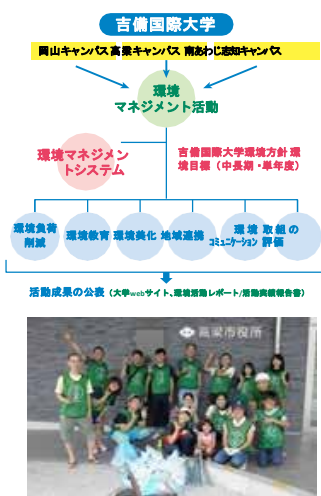
■背景と目的

大学は、教育研究活動において率先して環境配慮活動に取り組む責任があります。吉備国際大学は自らの責任を果たすため、環境マネジメントシステム（EMS）を構築し学内のすべての活動において環境に配慮した取り組みを進めています。

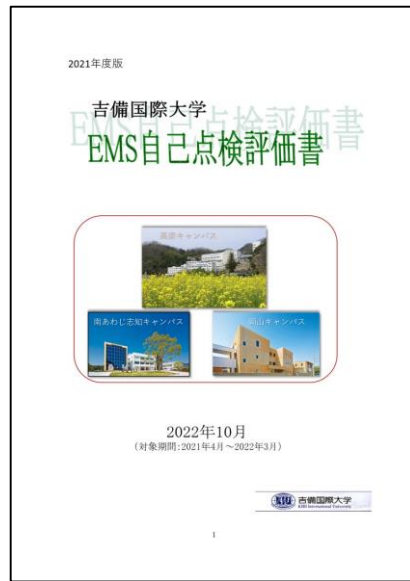
■活動の概要

2008年12月に吉備国際大学環境方針を制定、2010年5月にエコアクション 21 認証登録を受けてEMS体制の構築を進めたのち、2014年度から本学独自の EMS 体制に移行しています。EMS 活動は大学運営に関わる事務部門を通じて事業活動に浸透し、教職員および学生の活動に加えて常駐する委託会社職員との連携を図りながら、学内の諸課題に対応しています。活動成果は大学 HP で公表しています。

<https://kiui.jp/outline/ems/index>



高梁市内の環境美化活動



子どもの貧困の削減に

順正学園ボランティアセンター、吉備国際大学ボランティアセンターでは、順正デリシャスフードキッズクラブを開設し、0才から中学生（15才以下）までの子どもを養育し、かつ生活が困窮している家庭に対して、無償で食料品を配達することで、子どもの健全な育成と、世帯の自立を支援する取り組みを行っている。この活動を通じて、子どもの貧困の削減に取り組み、「食のセーフティネット」の構築と、誰一人飢えることのない社会の実現を目指している。

吉備国際大学における教育とSDGs



教育はSDGsの1つのゴール（SDG4）となっています。吉備国際大学では、すべての人々が質の高い教育の機会を得られるよう教員養成や地域と連携した生涯学習などに力を注いでいます。

また本学のすべての授業科目は各授業が関連しているSDGsのゴールをシラバスに記載し、各授業の内容がSDGsの目標とどのように関連しているかを意識した教育を行っています。さらに、全学教養教育科目においては、1年次に必修科目として「SDGs 概論」を開講して、全学生がSDGsの基礎を学んでいます。加えて、各学科の専門科目においてもSDGsに関連した教育を行い、学生たちの意識を高めています。



健康寿命延伸のための運動継続システムの構築



■社会的背景と目的

健康課題の一つとして健康寿命の延伸が掲げられています。高齢化率が40%を超えている市町村も少なくなく、平均寿命と健康寿命の差が拡大しています。健康寿命延伸の1つの方法として運動があげられますが、地方では運動を実践できる施設や指導者が少ないことが重要な課題となっています。大学と行政が連携し、運動を継続できるシステムを構築することを目的とし、地域住民の健康寿命延伸に取り組んでいます。

■活動概要

2016年から地域の方を対象に健康教室、体力測定を展開しています。2020年からはリモート教室、出張体力測定を実施し、来学が困難な方を対象とした活動も実施しています。会の運営、運動指導は教員指導のもと学生が中心となり実践しています。これまで延べ6,831名の地域住民、延べ3,977名の教員・学生スタッフが参加しています。

■期待される効果

中山間部地域における運動を継続できる拠点として大学を活用し、行政と連携して地域住民の健康寿命延伸に貢献します。



心→行動→体



健康教室受付 運動指導の実践



リモート健康教室

SDGsの視点で国際開発を考える



■目的と背景

世界にはまだ多くの開発途上国、地域が残されており、その開発問題は、貧困や基本的人権に関わる課題を有しており、戦争、紛争などの原因となっています。そのため、国際社会はこれまで、ミレニアム開発目標 MDGs をつくり、さらに持続的開発目標 SDGs をつくり全世界で取り組むことが国連で決議されました。外国学科の専門科目「国際開発研究」では、これまでの国際社会の取り組みをレビューすると共に、開発途上国の開発問題をその課題毎に、分析すると共に、多角的な視点で解決策を模索する方法を学びます。また、授業はすべて英語で行われます。

■活動内容

ミレニアム開発目標 MDGs から持続的開発目標 SDGs への変遷を把握し、指定のテーマに従って、各グループは、SDGs のどのゴール、目標にどのように関係するのか、開発途上国が有している開発課題とは具体的に何か、どのような解決策が考えられるのかに関し調査し、議論し、その結果を取りまとめて授業で発表します。グループの持ち時間は30分間。テーマは、Poverty Reduction（貧困削減）、Population（人口）、Food and Agriculture（食料と農業）、Creating Jobs（職をつくる）、Education（教育）、Health and Sanitation（保健と衛生）、Energy（エネルギー）、Environment issues（環境問題）です。5回の授業で10グループが発表し、担当教員より講評と補足説明を行います。

■期待される効果

グループワークを通じて、開発課題の根本問題と相互関連性・複雑性、SDGsとの関連性、具体的な解決策の検討を行い、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力、自己効用感を学生が身につけるとともに、英語で発表することを通じて、コミュニケーション・表現力の向上を図っています。



ワークシェアリング就労支援プロジェクト



■目的と背景

互いに分ち合うインクルーシブな地域の構築に主眼をおいた就労支援を提案することを目的としています。

■活動内容

本プロジェクトは、高梁市内の複数の作業所と連携のもと作業所の利用者に対して、大学キャンパスにおいて大学の教育及び研究に関連する業務と時間の選択肢を提供しています。障害をもつ当事者自身が個々の状況にあった仕事を選択し、個々が仕事の仕方を工夫することで、働くことが可能になります。

■期待される効果

プロジェクトの利用者が、精神不調による入院をしていないことや、プロジェクトを利用して2名が就労につながったことをモデルとして、徐々にプロジェクトの利用希望者が増加しました。互いに分ち合うインクルーシブな地域の構築は、当事者が意味ある仕事を通じて体験するストレス感と満足感のバランスを保ち自己のエネルギーを管理するスキルを発揮する機会をつくり、当事者の健康的な生活を促進することが期待されます。



プロジェクトでは就労支援について、発達の転換を提案しています

- | 今までの考え方 | プロジェクトの考え方 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 働くことは再発につながる 一部の人のみ支援 一般とは別の場所 準備が先 能力に合う仕事 他社が評価 | <ul style="list-style-type: none"> 働くことは健康を支える 全ての希望者を支援 一般とは分けず同じ場所 きながら 自分に合う働き方 自分で決める |



Well-Beingな社会づくり

吉備国際大学の主要学部が立地している高梁市は2021年度から2030年度までの10年間を計画期間とした、高梁市総合計画を策定しました。この計画では、「健幸都市たかはし」を都市像に掲げ、身体のみならず、市民が生きがいを感じ、地域への愛着と誇りを持って、心豊かで幸せに暮らせるまちの実現を目指しています。まさに「Well-Being」なまちづくりを目指しているといえるでしょう。吉備国際大学は健康スポーツ、保健と福祉、心理学、国際化と地域連携、農水産分野で強みを持っている大学として、持続可能でWell-Beingな社会づくりに貢献していきたいと考えています。